

第Ⅱ章 福島市の都市構造上の課題と 今後のまちづくりの方向性

Compact plus network

第Ⅱ章 福島市の都市構造上の課題と今後のまちづくりの方向性

1. 人口減少、少子高齢化の進展を踏まえた都市構造上の課題

【項目】	【現状と将来予測】	【課 題】
市街地密度	● これまでも線引き等の都市計画制度のもとでコンパクトな市街地が形成されています。 ● 人口減少の進行により、今後さらなる市街地の低密度化が懸念されます。	■ 人口減少が進行していることから、今後も線引き等のもとで市街地の拡大を抑制するとともに、これまで構築してきた都市基盤を基本としながら、空き家等の既存ストックの有効活用を図り、市街地の低密度化を抑制していく必要があります。
日常生活サービス	● 市内の各種生活サービス施設の徒歩圏人口カバー率は本市と同規模の都市(人口規模 30 万人都市平均)と比較して同程度又は高い傾向にありますが、福島駅周辺では中合百貨店の閉店にコロナ禍が重なり、民間の投資意欲が減退して空き店舗や空き地等の発生が見られます。 ● 福島駅東口で街なか再生の起爆剤である再開発事業が早期実現に向けて進みだしたとともに、西口では拠点機能を担いうるまとまった貴重な土地である商業施設跡地の利活用や、東口と一体に捉えた駅東西の連携のあり方について検討が進められています。	■ 今後も身近な生活サービスを受けられるよう、一定の人口密度を維持していくことで、各種生活サービス施設を維持していく必要があります。 ■ 福島駅東西の現状を踏まえて、東口再開発事業と合わせて駅東西の一体的なまちづくりについて、市民の声を伺いながら検討していく必要があります。
地域公共交通	● 人口減少等による利用者の減少や、担い手不足など、公共交通を取り巻く環境は厳しさを増しており、公共交通ネットワークの縮小やサービス水準の低下が懸念されます。 ● 高齢化の進展に伴い、自家用車を運転できない高齢層が相対的に増え、公共交通空白地域等では生活サービス施設利用などの活動機会が減少することが懸念されます。	■ 自動車交通の分担率が高い実情を踏まえながらも、自動車への過度な依存を改め、持続可能な公共交通ネットワークを構築していく必要があります。
財 政	● 近年自主財源比率が依存財源比率を下回っており、今後の人口減少などによる税収減により、更に自主財源の確保が困難になる恐れがあります。 ● 高齢化の進展による社会保障費等の民生費の増加により、新たな公共投資や維持管理費用の捻出が困難になる恐れがあります。	■ 人口減少による税収減が見込まれるなかではより一層の効率的な都市経営が求められることから、今後は、既存ストックを有効活用した都市のリノベーション（再構築）や民間活力の活用、事業者及び住民との協働による取り組みが必要です。

2. 今後のまちづくりの方向性

人口減少社会へ移行し、少子高齢化が進行する中においては、無秩序な市街地の拡大・拡散による中心部の活力低下や、市街地などでの空き地・空き家の増大による住環境の悪化を抑制し、効率的・効果的に持続可能な都市経営の実現を図ることが大切です。

今後は、コンパクト・プラス・ネットワークの方針のもと、都市機能の既存ストックを最大限に生かしつつ中心拠点と地域拠点が特色と均衡ある発展をすることで、市全体の都市力を向上させて活力ある福島市の形成を目指すことが重要です。

■ 上位・関連計画による今後のまちづくりの考え方

【第6次福島市総合計画】「まちづくり基本ビジョン体系図」より抜粋

- 福島らしさを生かした新ステージの形成
- 持続可能性の実現
- 多様性の尊重
- 県都としての責務
- ポストコロナ時代を見据えた社会づくり

【県北都市計画区域マスタープラン】「2. 都市計画の目標 2) 都市づくりの理念」より抜粋

- 地域特性に応じたコンパクトな都市づくり
- ひと・まち・くるまが共生する都市づくり
- 魅力とにぎわいのある中心核と成長を支える産業基盤の形成

【福島市都市マスタープラン】「Ⅲ 都市づくりの将来像 (3) 都市づくりの基本目標」より抜粋

- コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり
- 福島駅を中心とした賑わいと回遊性あふれる中心拠点の形成

【福島市地域公共交通計画】「第4章 公共交通の目指すべき将来像 4-2 計画の目標」より抜粋

- 都市機能区域と居住推奨区域の機能に応じた公共交通網の維持・強化

【風格ある県都を目指すまちづくり構想】「1 中心市街地におけるまちづくりの基本的な考え方」より抜粋

- 広域的な拠点地区として活力のあるまちづくり
- 魅力的で賑わいのあるまちづくり
- まちを楽しみ、すごせるシンボル軸・回遊空間づくり
- 快適で住みやすいコンパクトなまちづくり
- みんなが参画し、連携するまちづくり

【福島市が目指すまちづくりの方向性】

高次都市機能を集積させたコンパクトな中心市街地の形成
各地域の特色と均衡ある発展に向けたネットワーク型の都市構造の形成

■ 分析結果を踏まえた都市構造上の課題

福島駅東西一体のまちづくり
生活サービス施設利用圏の人口密度の維持・確保
中心拠点と地域拠点を連携する持続可能な公共交通ネットワークの構築
既存ストックや民間活力などの有効活用

【課題解決に向けた方向性】

コンパクト・プラス・ネットワークの方針のもと、都市機能の既存ストックを最大限に生かしつつ中心拠点と地域拠点が特色と均衡ある発展をすることで、市全体の都市力を向上させて活力ある福島市の形成を目指す